事例No.	1032
公表年度	R1
団体の属性	一般市
団体名	栃木県足利市

事例区分	公営企業

タグ	・市場事業 ・公共施設活用 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	民営化・民間譲渡

事例内容・タイトル

足利市公設地方卸売市場の民営化について

出典

雑誌「公営企業」先進事例紹介（令和２年１月号）

先進事例紹介



足利市公設地方卸売市場の民営化について

足利市産業観光部農政課

1　はじめに

足利市は、栃木県の南西部に位置し、関東平野の北方に連なる山岳地帯と平野部との境にあり、東京都心より北方約80kmの首都圏にあります。

市域の範囲は、東西18.8km、南北19.4km、面積は約178km^{2}です。市の中央を渡良瀬川が流れ、北部は山岳地で南部は関東平野が広がっています。

古くから織物のまちとして知られていますが、近年はアルミや機械金属、プラスチック工業などを中心に、総合的な商工業都市になっています。

また、日本最古の学校といわれる日本遺産「史跡足利学校」のほか、本堂が国宝に指定された足利氏ゆかりの「鑁阿寺（ばんなじ）」などがある歴史と文化の香りに満ちたまちでもあります。

2　民営化に至る背景や経過

足利市公設地方卸売市場（以下「公設市場」という。）は、取引の適正化とその生産及び流通の円滑化を図るとともに、市民生活の源となる生鮮食料品等の安定供給を担うことを目的とし、市内の民営市場等を統合して昭和52年２月に開設しました。

公設市場の敷地については、市が現開設者から賃借し、市が所有して管理していました。

公設市場は開設以来40年が経過し、施設の老朽化や建物の耐震化などの課題を抱えていました。公設市場は特別会計で運営されていましたが、毎年一般会計から繰入金を投入して公設市場会計を維持していく状況が継続していました。

また、近年、場外取引の増加等流通形態の多様化による取扱高の減少や高齢化による売買参加者の減少等、公設市場を取り巻く環境は大きく変化し、このような状況に素早く対応できる管理・運営体制が必要とされていました。

このような状況の中、市は平成13年から近隣地区の５市場間で市場統合に向けた協議、検討を行ってきましたが、行政と市場関係者との間において統合に関する考え方に温度差が生じた

ことや、行政間において市場の設置場所の選定が難航するなどの問題が生じ、平成21年に市場の統合を断念しました。

市は今後の対応策を講じるため、平成22年には市の内部に検討会を立ち上げ、公設市場の在り方等について議論するとともに、現開設者とは土地売買の交渉を含めた話し合いや卸売業者との意見交換などを行い、民営化を含めた今後の公設市場の在り方について検討を重ねてきました。この間、公設市場の運営は、８名（正規職員４名､嘱託職員１名､補助職員３名）で行っていましたが、平成25年度から平成27年度までの３年間は、市の財政負担を軽減するため、指定管理者制度を導入しました。

平成27年１月、現開設者を開設者候補として公設市場の民営化を推進してほしいという趣旨の要望書が市場関係者から市へ提出されました。これにより、市と市場関係者との間で民営化という共通認識が形成され、公設市場の民営化事業が加速されました。

民営化にあたっては、施設の老朽化の解消とともに、今後も市場が安定した運営を継続できるためにどうすればよいかなどの課題がありました。この諸課題の解決に向けた協議、検討を幾度も重ね、最終的には、必要かつ適正な規模に縮小して市場を新築再編し、残地に商業施設を誘致することとなりました。商業施設の誘致は、様々な構想に基づくものですが、市場経営の安定と場内事業者の負担軽減を図ることが主な目的です。

こうして、平成29年３月、開設者の地位の承継、既存建築物等の無償譲渡、土地賃貸借契約の合意解約等を盛り込んだ合意事項確認書を市と現開設者との間で締結しました。その後、開設者承継などの諸手続きを進めながら、現開設者との最終協議や場内事業者との話し合いを継続しました。

平成29年12月25日、合意事項確認書を基本とした民営化の協定書を、市と現開設者との間で締結し、平成30年１月５日から公設市場は民営化されました。

３　民営化の概要

公設市場の敷地については、現開設者との賃貸借契約を解約し、施設（次頁、旧市場と新市場の比較表のとおり）については、無償で譲渡しました。さらに､現開設者に３か年度にわたり、市から旧施設の解体費、共用施設の整備費や事業運営費の一部を補助することとしました。

４　施設整備の内容

民営化に伴う市場施設の整備については、旧施設での営業を行いながら、現開設者が旧施設を解体し、青果棟、水産棟、関連店舗棟の新施設を建築し、令和元年９月から新施設での営業を開始しました。関連店舗棟については、一般消費者が常時利用できるよう、場外に設置しました。

今後、残りの旧施設の解体、駐車場や外構を整備し、令和２年度中に、すべての施設整備が完了する予定となっています。

５　おわりに

市場は、民営化から２年が経過し、現在は最新の設備を備えた施設となり、市場機能が拡大して、より鮮度の高い生鮮食料品が届けられるようになるなど、順調に運営されています。

また、今後、隣接地に新たに商業施設が誘致されることにより、場外市場とともに買い物の利便性や賑わいの創出にもつながり、地域ひいては市の活性化にも一層の弾みがつくものと期待しています。

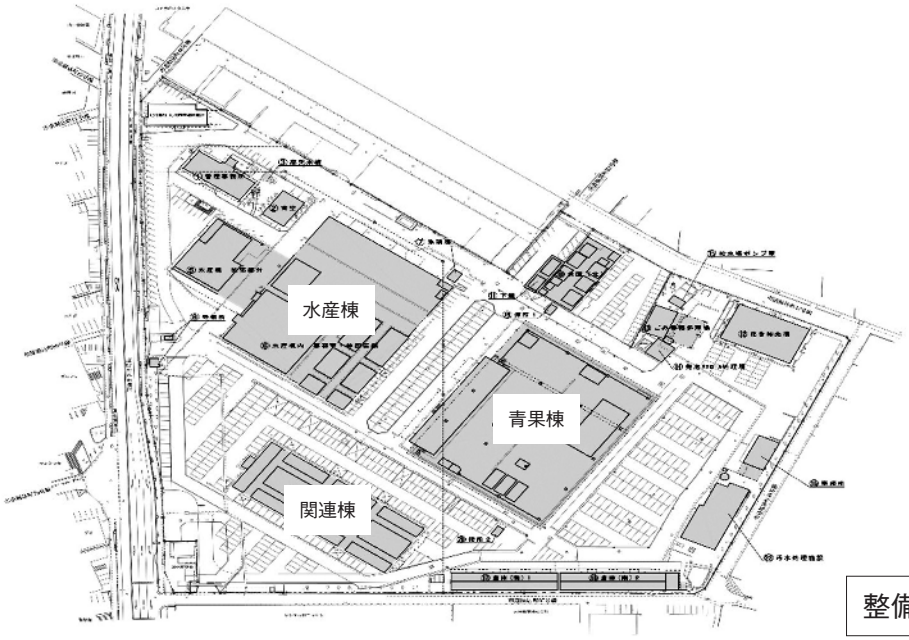
○旧市場と新市場の比較

市場敷地面積		旧	新
		52,462.96m^2	24,862m^2
参考：商業施設敷地面積		—	26,261m^2
施　設　名		延　床　面　積	
青　果　棟	計	6,078m^2	5,273m^2
	卸売場	4,998m^2	4,334m^2
	事務所	775m^2	502m^2
	仲卸売場	305m^2	437m^2
水　産　棟	計	5,198m^2	2,852m^2
	卸売場	3,005m^2	1,511m^2
	事務所	1,089m^2	369m^2
	仲卸売場	1,104m^2	972m^2
花　き　棟		656m^2	−
金融機関		464m^2	−
駐　車　場		554台・15,006m^2	253台・3,300m^2
関連店舗棟（場外）		18業者・3,836m^2	10業者・1,071m^2

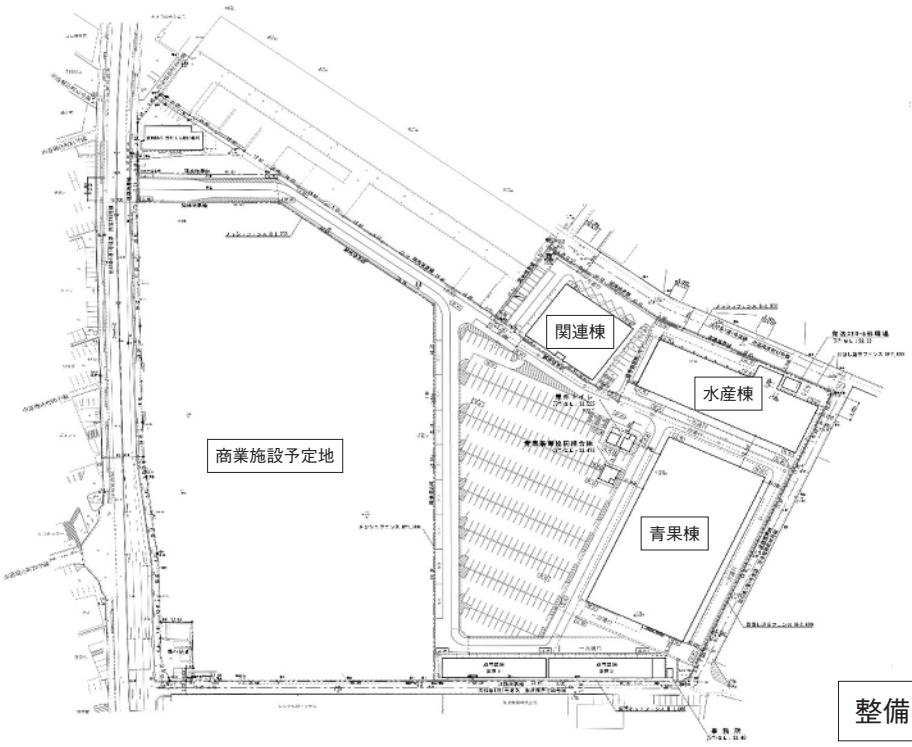
○新施設一覧

施　設　名		延床面積	構造	備考
青　果　棟	卸売場	4,334m^2	鉄骨造 ２階建	低温卸売場等含
	事務所	502m^2		会議室等含
	仲卸売場	437m^2		５業者（通路含）
水　産　棟	卸売場	1,511m^2	鉄骨造 ２階建	冷蔵庫等含
	事務所	369m^2		会議室・書庫含
	仲卸売場	972m^2		５業者（通路含）
倉　庫（２棟）		405,455m^2	鉄骨造	既存施設使用
小売商組合（青果）		41m^2	鉄骨造	
発泡スチロール処理場		35m^2	鉄骨造	
屋外トイレ		45m^2	RC 造	
合　　計		9,111m^2		
場外	関連店舗棟	1,071m^2	鉄骨造	10業者　25小間
	管理事務所	178m^2	木造	
	小売商組合（水産）	46m^2	木造	

○市場整備新旧配置図



整備前



整備後



青果棟



青果卸売場



水産棟



水産卸売場



関連店舗棟（場外）



関連店舗棟内（場外）